

朝倉市

# 松末復興かわら版

## 各地区の動き

2017/11/06付西日本新聞朝刊



11/6西日本新聞URL

九州豪雨で大きな被害が出た朝倉市と東峰村で、住民たちによる被災地の「未来図」づくりの議論が進んでいる。集落などを単位にした自主的な話し合いでは、川や道路といったインフラの整備を含めて話し合いが活発になっている。避難先から戻って住むなら安全な地域に「子や孫が将来戻れる古里へ」。市と村は来年3月、復興計画を策定するが、この計画に自分たちの意見を反映させたいという思いが住民を動かしている。ただ、地域によっては「集団移転」という選択肢を視野に議論するところも。豪雨から5日で4カ月。特に議論が進んでいる地域の現状を紹介する。

### 杷木志浪

流木や岩、土砂を含む濁流で、朝倉市杷木志波地区は全壊27世帯、大規模半壊4世帯、半壊20世帯の甚大な被害を受け

が集団移転を望んだ。住民代表の坂本茂代さん(80)は「ばあちゃんに、これだけは聞いてきてくれと頼まれた。生きていく間に住めるようになるのか。集団移転はできるのか」。川改修、道路復旧、砂防ダム建設、のり面補強、宅地造成…。集落の復旧には費用がかさみ、何年かかるのか分からな



集落の復興について話し合う杷木志浪の住民たち。

い。平塚集落の日野博さん(55)は「集団移転の用地を確保し、元の土地建物の移転補償を充実させてはどうか。費用も時間も節約でき、住民の安全も確保できる」と提案した。国の防災集団移転事業は原則10戸以上が対象で、実現には地域のまとまりが重要。

自宅があった場所は今も川の中です。10月13日夜、志波小体育館で市が開いた最初の地区別復旧・復興推進協議会「住まいや生活の糧だった農地を失った住民が悲痛な声を上げた。道目木集落の上流には、災害から4カ月がたっても、手付かずの流木や大きな岩が残る。災害直後の意向調査では9割

者が行政へ議論のボールは投げられた。朝倉市の松末(ますえ)地区も豪雨で多くの犠牲者が出た。その中で乙石

### 乙石・中村・石詰

川流域にある石詰、中村、乙石3集落の住民が10月から自主的に始めた集会では、回を増すごとに復興案が具体性を増した。山深い谷あい計約40世帯が暮らしていた3集落。家と農地が流され、ほぼすべての住民が仮設住宅やみなし仮設住宅などに避難しているが、集会には多くの住民が集まり、議論は熱を帯びた。

10月22日あった石詰集落の第2回集会。九州大教授らも支援し、テーブルに置いた集落の空撮写真に、住民たちが考えながらアイデアが飛び交った。川の流れは「こっちはいい」「この付近の高い所を削って、みんなが住める宅地を造った」「農地がないと将来、若い人が住みたい地域にならんぞ」

### 東峰村

豪雨で3人が犠牲になり、住家約150戸に被害が出た東峰村。来年3月までの復興計画策定に向けて村民の声を反映させる4地区ごとの地域住民協議会「は10月下旬、それぞれの第1回協議会が終わった。東峰村は全住民参加」を目指すのが特徴だ。第1回協議会には4地区で合計218人が参加した。村の人口約2190人の10人に1人に当たる。

朝倉市も、8地区に同じような住民意見を拾い上げる協議会を発足させたが、参加住民は代表の20人前後に限られている。東峰村の協議会が最初から、テーブルに置いた各地区の空撮写真に住民が意見を書き込むワークショップ方式。このうち福井地区の協議会では「砂防ダムを造ってほしい」「JR日田彦山線の復旧を急いでほしい」などさまざまな意見が出され、住民は意見を書いた紙を写真に貼って情報を整理した。第2回協議会は11月下旬から12月上旬にかけて「5年後、将来の村や地域の姿」をテーマに開かれる。村民の声が具体的にまとまら

新税検討  
人工林3分の1を自然林に戻す  
2017/11/18付西日本新聞朝刊



この記事の詳細URL

放置されたスギやヒノキの民有林の手入れに国や自治体が入り始める。九州7県は森林環境税を創設し、立地が悪く場所を中心に、手間がかかりにくいブナなどの自然林に戻す事業にも取り組んでいる。国も森林

### 防災集団移転事業とは

「日本大百科全書より」 災害が発生した地域や災害危険区域のうち、住民の居住に適当でないことを認められる区域内にある住居の集団的移転を促進する事業。防集」とも。



防災集団移転の概念図(河川改修による移転と山崩れ危険地区による移転) 越地震(2004)や東日本大震災(2011)の際には当該地域での特例措置として、最低戸数を半分の5戸以上へと緩和した。東日本大震災被災地では、さらに住宅団地に関連する公的施設、公園、集会所などの用地取得造成費を補助対象に追加するなどの拡充措置を行っている。また、自治体が負担すべき残りの4分の1についても、同被災地では復興交付金や震災復興特別

### 地区別協議会

### 開催日程

- 市では年度末までに復興計画を策定するため住民の地区別協議会を以下の日程で行っています。
- ★10月22日(日) 9:00 松末瀬の口地区 ちくゆう館★10月22日(日) 10:00 松末石詰地区 ちくゆう館★10月22日(日) 13:00 白木地区 ちくゆう館★10月25日(水) 19:30 道目木地区 杷木白木公民館★10月25日(水) 19:30 道目木地区 杷木仮設住宅集会所
- ★11月18日(土) 15:00 松末本村地区 ちくゆう館★11月19日(日) 9:00 松末瀬の口地区 ちくゆう館★11月19日(日) 10:00 乙石・中村・石詰地区合同 ちくゆう館★11月19日(日) 13:00 白木地区 杷木白木公民館★11月20日(月) 19:30 朝倉地区 朝倉地域生涯学習センター★11月25日(土) 10:00 松末(真竹)地区 ちくゆう館★11月26日(日) 19:30 志波(平塚)地区 平塚公民館

なっていると推測する。中略) 7月の九州豪雨では、山林の保水力を超える雨が降り、大量の流木が発生。林野庁は大工林の荒廃との関係性は「ない」としている。ただ九州の民有林のうち、大半を占めるスギとヒノキの約7割は樹齢40年以上で、九州大大学院の久保田哲也教授「森林の久保田哲也教授「森林の久保田哲也教授「森林の久保田哲也教授」は、傾斜30度以上で、土の層が50cm程度と薄ければ、樹齢40年以上の木が生えている方が、風雨や地震で崩れやすい」と指摘する。



地区協議会日程  
松末復興かわら版の各号  
たまる会URL